

障害児の衣服の着脱に関する支援を目的とした布絵本の開発

Development of the cloth picture-book aiming at the support about attachment and detachment of a handicapped child's clothes

(1) 布絵本の制作

Work of a cloth picture-book

浅野めぐみ*・夫馬佳代子*・渡邊雄介**

Asano Megumi, Fuma Kayoko and Watanabe Yusuke

*岐阜大学大学院教育学研究科家政教育専修

**あじろ診療所ひめゆり療育センター

1. はじめに

衣服の着脱は人間が生活を営む上で必要不可欠な基本的生活習慣の一つである。衣服を自分で着脱できるようになることについて、内藤(2007)は、障害のある子どもたちにとって、難しい活動であることが多いと述べ、衣服の着脱ができるようになるように子どもたちが楽しく遊びながら手指を使う教材「らいおんマット」を自作した¹⁾。このように、衣服の着脱が困難である場合でも、遊びながらトレーニングすることのできる支援の一つとして、布絵本の存在に着目した。

障害児と布絵本については、早瀬(1987)が、使用実態と布絵本の分類を行い、障害児にとって布絵本が興味関心を引き出す遊具として有効であることを明らかにした²⁾。しかし近年、布絵本の使用実態や布絵本の分類を行った研究はされておらず、衣服の着脱の要素を含んだ布絵本は制作されているが、衣服の着脱に関する支援を目的とした布絵本の開発は、我々が調べた範囲では行われていない。また、障害児の衣服の着脱に関する支援については、布施ら(2009)が、衣服の着脱の自立に向けて、就学段階や障害の種類によって支援の方法を考えることの必要性を明らかにした³⁾。個々の実態や課題に合わせた支援を行うため、布絵本の開発を行うにあたって、事前の実態把握を明確にし、粘密な計画や構想を立てる必要があると考えられた。

そこで本研究では、療育センターで幼児・児童の観察実習を行い、幼児・児童の実態に考慮

した衣服の着脱に関する支援のための布絵本の開発を行い、障害のある子どもにとって衣服の着脱ができるようになるための有効な支援を検討したので報告する。

2. 研究方法

(1) 観察期間及び観察場所

市内の療育センターにおいて、平成22年5月に5回に渡り計10時間に渡って観察実習を行った。

(2) 対象者

療育センターで療育を受ける幼児・児童のうち12名を観察対象とした。今回は、衣服の着脱に関する支援を目的とした布絵本を開発するという観点から、12名のうち普段から衣服の着脱に関する取り組みを行っており、衣服の着脱に関する動作について理解を示した5歳から8歳までの幼児・児童6名を分析の対象とした。(表1)なお、本研究に際して、保護者に対して研究の趣旨を十分に説明し、紙面にて同意を得た。

表1 本研究の対象児

事例	性別	年齢	障害名	
1	K.H	女兒	5	広汎性発達障害
4	W.Y	女兒	7	ダウン症
7	N.Y	男児	5	広汎性発達障害
10	O.S	男児	6	脳性まひ
11	I.J	男児	7	脳性まひ
12	N.H	女兒	8	ダウン症

(3) 観察内容

衣服の着脱には、いくつかの必要な動作があり、その動作を行う部位には、首、肩、腕、肘、指、手首、腰、足、膝、足首、姿勢、態度がある。療育を受けている幼児・児童の様子や作業療法士、保護者の話を元に、それぞれの動作について課題や支援に必要な要素を検討した。同時に、障害の特性や発達段階を踏まえた上で、保護者の同意のもとに行動の特徴や興味関心のあるものについても記録を採り、布絵本の構想に活用した。

3. 結果

観察結果一覧を表2に示した。○が付いている項目が、観察実習の中で確認できた動作である。これらの結果から明らかとなったのは以下の3点であった。

第一に、すべての対象児が、指に力を入れることを苦手としていた。第二に、ほとんどの対象児がボタンやファスナーなどの道具の操作で右手と左手を同時に動かしたり、左手と右手で異なる動きをしたりすることを苦手としていた。衣服の着脱の動作のうち、特に指先の機能に課題が集中していた。最後に、集中して取り組むことや、意欲を持って取り組むことに課題があった。繰り返し取り組むことや手元を良く見て取り組むことを苦手とする様子が見られ、そのような作業においては自分から進んで取り組む様子も少なかった。しかし、好きな活動や興味のある活動に関しては何度も繰り返し取り組んだり、自分から進んで取り組んだりする様子が見られた。

表2 観察実習の結果一覧

衣服の着脱に必要な動作	○ 確認できた動作					
	事例1 女児	事例1 女児	事例7 男児	事例10 男児	事例11 男児	事例12 女児
頭を下げる	○	○	○	○	○	○
頭を上げる	○	○	○	○	○	○
肩を振る	○	○	○	○	○	○
肩を前に出す	○	○	○	○	○	○
肩を上げる	○	○	○	○	○	○
肩を下げる	○	○	○	○	○	○
腕を高く上げる	○	○	○	○	○	○
腕を少し上げる	○	○	○	○	○	○
腕を前に出す	○	○	○	○	○	○
腕を下げる	○	○	○	○	○	○
腕に力を入れる	○	○	○	○	○	○
肘を大きく曲げる	○	○	○	○	○	○
肘を少し曲げる	○	○	○	○	○	○
指を伸ばす	○	○	○	○	○	○
指で物を握む	○	○	○	○	○	○
指を物から離す	○	○	○	○	○	○
指に力を入れる	○	○	○	○	○	○
手をひねる	○	○	○	○	○	○
手を広げる	○	○	○	○	○	○
手を広げずに動かす	○	○	○	○	○	○
言葉を理解する	○	○	○	○	○	○
動作を理解する	○	○	○	○	○	○
集中力して取り組む	○	○	○	○	○	○
意欲を持って取り組む	○	○	○	○	○	○

4. 布絵本の構想

観察結果によって明らかとなった指先の機能の課題に取り組むため、本研究ではマジックテープ、スナップボタン、ボタン、ファスナー、鍵ホック、ひもの6つの道具の操作を中心とした布絵本の制作を考えた。さらに、一人ひとりの実態に合わせて布絵本を活用することができるように、ステップ1、ステップ2、ステップ3と段階を踏んだ三冊の布絵本を制作することにした。ステップ1は、「衣服の着脱に必要な手指機能を身に付けるための布絵本」、ステップ2は、「衣服の着脱に必要な手指機能を高めるための布絵本」、ステップ3は、「一人で衣服の着脱ができるようになるための布絵本」を目標とし、以下のような構想を練った。

(1) ステップ1のねらいと構想

ステップ1では、子どもの想像力や好奇心を掻き立てる「ぼけっと」を題材とし、マジックテープ、ファスナー、ボタン、スナップボタン、鍵ホック、ひもの道具の操作を行うための手の動きを習得したり、道具に親しんだりすることをねらいとした。ポケットの中に隠されている仕掛けやマスコットを見つけ出し、想像力や好奇心を働かせながら遊ぶことが出来るようにした。道具を使用するために必要な左手と右手の協調性や手と目の協調性、また、基本的な操作も可能となるような内容を取り入れた。具体的な構想を、図1に示した。

道具	手指機能	具体的な動作
押し指 いろいろな感触の布 ひも、ゴム	触る、押す つまむ、つかむ、握る 引っ張る、取り出す	・右上と同じマスコットを、ポケットの中から探す。 ・音のなる仕掛けや様々な感触のポケットを押したり触ったりする。 ・ポケットの中からゴムやひもの先に付けられたマスコットを取り出す。
ボタン	つまむ、あげる 取り出す、つまむ	・ポケットのふたをあけて、ポケットの中からお金を取り出す。(お金はボタンを利用して作る。)
ファスナー	つまむ、引っ張る、閉める	・カギの口の中心にお金を入れる。 ・ファスナーを開けて、お金を取り出す。(ファスナーの先にマスコットをつけ、つまみやすいようにする。)
ボタン	つまむ、取り出す	・ポケットの中からハンカチを取り出す。 ・高麗ハチをつまみ、ハンカチを脱ぐ。
マジックテープ	出せる、つまむ 右手と左手の協調性	・ファスナーを開けて、ポケットの中からおがびを取り出す。(ファスナーの先に輪をつけ、つまみやすくする。)
スナップボタン	つかむ、引っ張る、閉める 引っ張る、取り出す、つまむ、合わせる、右手と左手の協調性	・おがびをマジックテープで風呂敷の上に貼り付ける。凸凹の構造が大きい目のスナップで風呂敷の角をとめて、おがびを包む。
フック	取り出す、つまむ つかむ、引っ張る、出す、目と手の協調性	・ポケットの中から、靴下を引っ張り取り出す。 ・靴下にひもをつけ、フックに引っかける。 ・靴下にフックを取り付け、ひもに引っかける。

図1 ステップ1 衣服の着脱に必要な手指機能を身に付けるための布絵本「ぼけっと」構想

(2) ステップ2のねらいと構想

ステップ2では、「ようふく」を題材とし、マジックテープ、ファスナー、ボタン、スナップボタン、鍵ホック、ひもの道具の操作を繰り返し行うことで、スムーズに操作ができるようになることをねらいとした。真っ白なようふくに、葉っぱや花などをマジックテープ等の道具を使ってはりつけ、オリジナルの洋服を作ることができるようにした。また、どの道具に対しても大きさや向きなどに工夫を加えて、子どもたちが布絵本に取り組みながらその機能を高めることができるようにした。具体的な構想を図2に示した。

(3) ステップ3のねらいと構想

ステップ3では、「きがえ」を題材とし、マジックテープ、ファスナー、ボタン、スナップボタン、鍵ホック、ひもの道具の操作や、服を着る、脱ぐ、たたむ、などの衣服の着脱に関する動作を練習することをねらいとした。布絵本をタンスに見立てて、それぞれの道具を使用した、色とりどりのかわいい洋服を用意した。それをくまのぬいぐるみに着せたり、脱がせたりしながら、衣服の着脱に親しむことができるようにした。ステップ1、ステップ2と取り組んできた布絵本の集大成として、衣服の着脱に関する手指機能を発揮できる場となるようにした。具体的な構想を図3に示した。

道具	手指機能	具体的な動作	道具	手指機能	具体的な動作
	・取り外す ・取り付ける	・表紙にマジックテープで留めてある動物を取り外し絵本の中に取り付ける。 ※マジックテープ、スナップボタン、ボタン、鍵ホックのページはそれぞれ道具の大きさを大中小の3つ用意してある。		・つまむ ・とりはずす ・とりつける ・右手と左手の協調性	・中心がボタンになった花の花びらを取り外す。 ・ボタンと花びらの大きさに注意してようふくにボタンを取り付ける。
	・つまむ ・とりはずす ・とりつける	・マジックテープで留めてある葉っぱを取り外す。 ・葉っぱをようふくに取り付ける。		・つまむ ・合わせる ・かける ・はずす ・手と目の協調性	・鍵ホックのついたリングをはさず。 ・鍵ホックの大きさに注意して、ようふくにかける。
	・つまむ ・とりはずす ・合わせる ・押す ・手と目の協調性	・スナップボタンのついた雨を取り外す。 ・スナップボタンの凸凹の大きさに注意して、雨をようふくに取り付ける。		・つまむ ・開ける ・閉める ・取り出す ・取り付ける ・通す	・ファスナーを開けてマジックテープのついた星のマスコットを取り出す。 ・マジックテープのついた星を取り付ける。 ・穴にひもを通していき、星の形を作る。

図2 ステップ2 衣服の着脱に必要な手指機能を身に付けるための布絵本「ようふく」構想

道具	手指機能	具体的な動作	道具	手指機能	具体的な動作
	・ひっぱる ・ほどく ・結ぶ	・くまと布絵本を結んでいるひもをほどく。 ・くまと布絵本をひもで結ぶ。		・つまむ ・開ける ・外す ・着せる ・閉める	・ハンガーから正面がファスナーの服を外す。 ・くまに服を着させる。
	・つまむ ・脱がす	・くまが着ているシャツとパンツを脱がす。		・外す ・取り出す ・脱がす ・つまむ ・合わせる ・かける	・ハンガーから正面が鍵ホックのズボンを外し、ポケットの仕組みになっているタンスから靴下を取り出す。 ・くまが履いているズボンを脱がせる。 ・脱いだズボンをハンガーにかける。 ・くまにズボンと靴下を履かせる。
	・つまむ ・取り付ける ・取り外す ・引く ・たたむ	・脱がせたシャツをハンガーにかけるようにマジックテープでとめる。 ・マジックテープで留められているタンスを開きパンツをしまおう。		・外す ・取り外す ・脱がす ・着せる ・取り付ける ・つまむ	・ハンガーから前ボタンシャツを外す。 ・くまが着ている服を脱がせ、ハンガーにかける。 ・脱いだ前ボタンシャツをくまに着せる。
	・つまむ ・取り外す ・着せる ・合わせる ・押す	・スナップボタンで留められているズボンをハンガーからはずす。 ・くまに正面がスナップボタンで留めるようになっているズボンを履かせる。	*より実践的に衣服の着脱練習ができるようにくまのぬいぐるみを使用する。 また、ここに示す衣服の組み合わせや着替えの順番は本研究で使用するものであり、対象児が自由に遊ぶ際には好みに合わせて変更することが可能である。		

図3 一人で衣服の着脱ができるようになるための布絵本「きがえ」構想

5. 布絵本の制作

(1) ステップ1「衣服の着脱に必要な手指機能を身に付けるための布絵本」の制作

材料

●布類	●付属品
○カラ? シーチング 黄色	○ひも ピンク色と白色 白のゴムひも 古着のボタン付きひも 赤色
○フェルト 黄色 水色 黄緑色 赤色 桃色 緑色 白色 黒色 オレンジ色	○押し笛 ○マジックテープ ○ボタン 丸ボタン 大中小 黒ボタン
○パネロン芯 ○古着 デニム生地ポケット 茶色のポケット 白色のブラウス	○ファスナー 黒色 ○クリップ ○スナップボタン ○S字フック

図4-1 材料

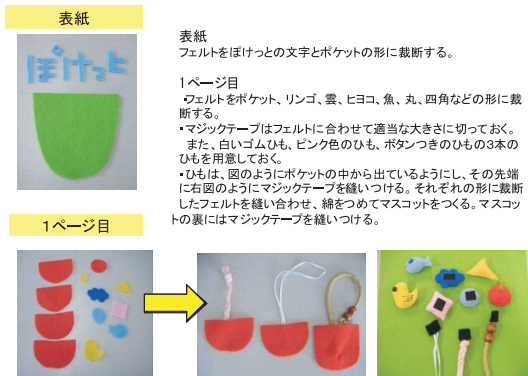


図4-2 制作手順①

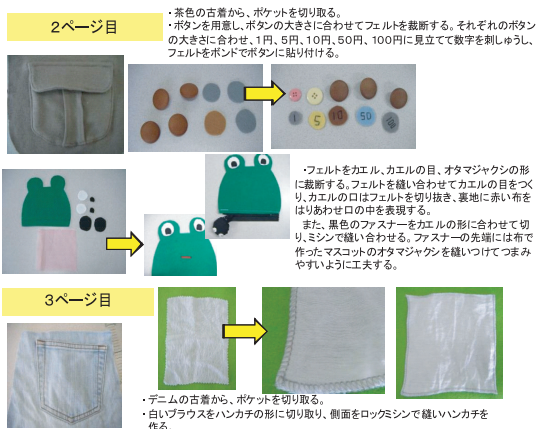


図4-3 制作手順②



図4-7 制作手順⑥

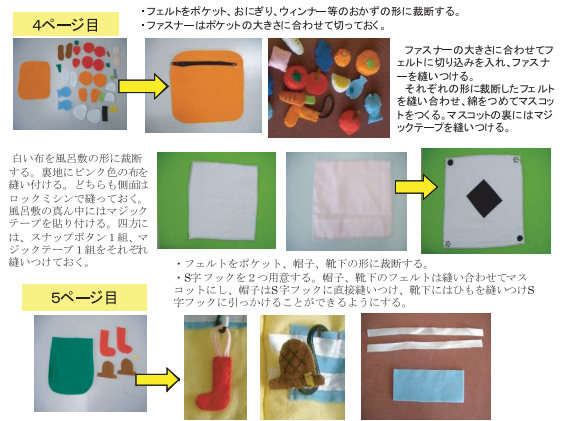


図4-4 制作手順③



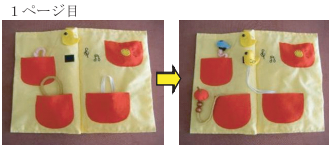
図4-5 制作手順④



図4-6 制作手順⑤

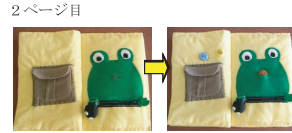


図4-8 制作手順⑦

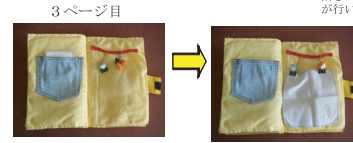


中央の見本のヒヨコ(青丸点線)と同じマスコットを4つのポケットの中から探し当てる仕掛けとなっている。右側のポケットの中には、押し笛が入っているため、手のひらや指先で押すと音が鳴る。その他の3つのポケットの中からは、ひもが出ている。このひもをひっぱると、ひもの先にはマジックテープでくっつけられたマスコットがある。その中からヒヨコを探し当て、見本の下のマジックテープにくっつける。それぞれ違った感触のひもを引っ張ったり、マスコットをつまんだりすることで手指の巧緻性に働き掛ける。また、どこにヒヨコが入っているのかなどという想像力をかきたて、見本と同じものを探しあてることで、身近な物の分別が可能となる。

図4-9 仕掛け①

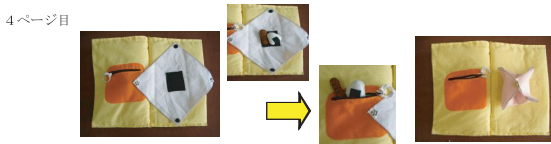


左のページの茶色のポケットの中にお金が入っているので、ポケットのふたをあけて、お金を取り出す。お金は右側のカエルの中に入れて。お金はボタン、カエルの口はボタンホールの要領である。また、カエルの舌の部分がファスナーになっており、ファスナーを開けてお金を取り出す。この際、ファスナーのつまむ部分にオタマジャクシ、ファスナーの両端にカエルの手をつけたことでファスナーの細かい動きが緩和され、ファスナーの開け閉めの練習が行いやすいようにした。



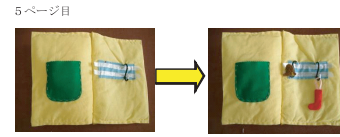
3ページでは、左のページのポケットの中に入っているハンカチを取り出す。右のページの洗濯バサミでハンカチを挟む。ハンカチを取り出した後、洗濯バサミを使用したりするには、つまむ器用さやつまむ力が必要となる。さらに、ハンカチを洗濯バサミに挟むには、手と目の協調性だけでなく、右手と左手の協調性が必要である。これらの操作を、デニム生地ポケット、本物の洗濯バサミを使用し、実践的な道具を使用して日常生活をイメージしながら遊べるようにした。

図4-10 仕掛け②



4ページでは、左のページのポケットの中に入っているおかずを取り出す。ポケットはファスナーで開け閉めできるようになっている。取り出したおかずと右のページの風呂敷は、マジックテープでくっつく。おかずを風呂敷の上に載せ、ふろしきの端と端を合わせておかずを包む。この際、端と端は、マジックテープとスナップボタンでくっつけることができるが、手指の巧緻性だけでなく右手と左手の協調性を養うことが出来ると思われる。

図4-11 仕掛け③



5ページでは、左のページのポケットの中からはひものついた靴下とフックのついた帽子を取り出す。右のページのフェルトとの隙間にフックをかける。また、フェルトに固定されているフックに靴下のひもをかける。フックの先やひもを集中してよく見ため、手指を動かさなければならない。

図4-12 仕掛け④

資料1 完成した布絵本 ステップ1「ぽけっと」



以上のように、身近なポケット、身近な食べ物や生活用品などを使用した布絵本に親しみながら、衣服の着脱に必要な手指機能を身につけ

ることを期待した布絵本を制作した。

(2) ステップ2「衣服の着脱に必要な手指機能を高めるための布絵本」の制作

材料	
●布類	●付属品
○カラ? シーティング 青色 薄い緑色 ○白い厚手の布 ○フェルト 黄色 水色 黄緑色 赤色 桃色 緑色 白色 黒色 オレンジ色 ○パネロン芯 ○古着 タオル生地 茶色	○ひも 黒 ○マジックテープ ○ボタン 丸ボタン 大中小 黒ボタン ○スナップボタン ○ファスナー 緑色 ○リング ○ビーズ ○鍵ホック

図5-1 材料

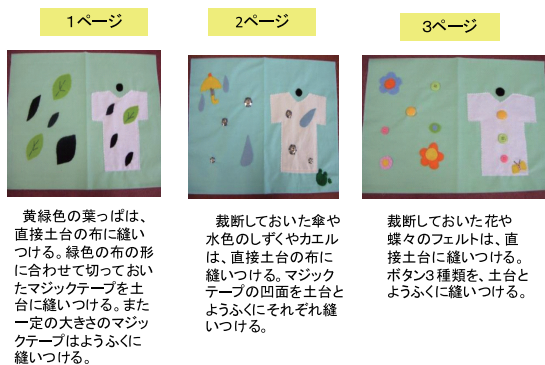


図5-2 制作手順①

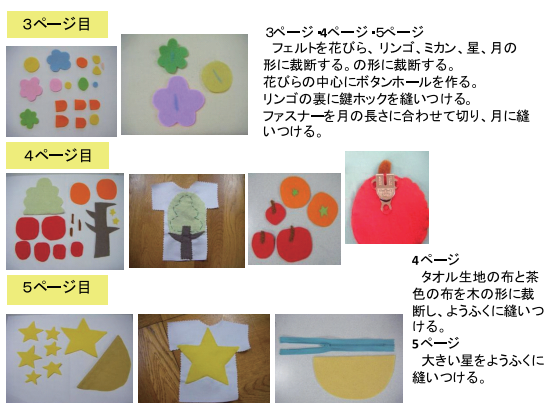


図5-3 制作手順②

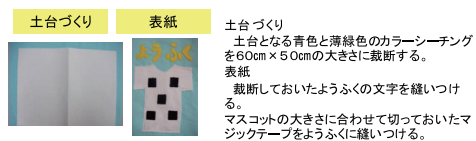


図5-4 制作手順③



図5-5 制作手順④



図5-6 制作手順⑤

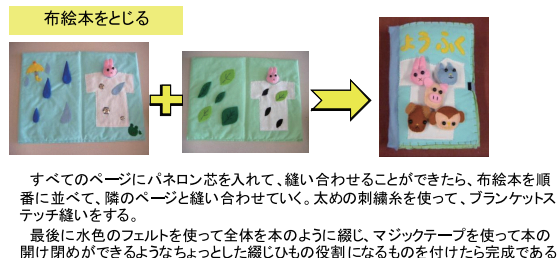


図5-7 制作手順⑥

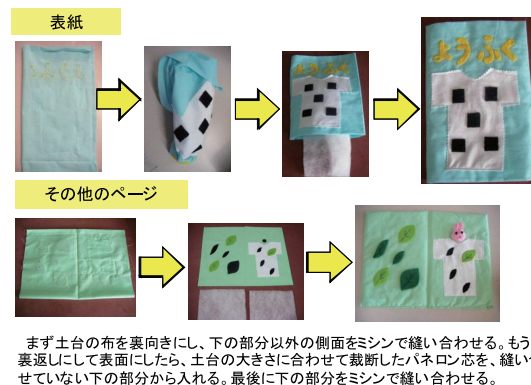


図5-8 制作手順⑦

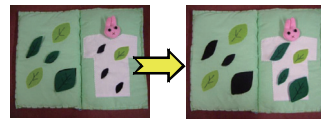


表紙

表紙には、ウサギ、ネコ、ブタ、イヌ、サルの動物のマスコットマジックテープではりつけてある。これを取り外し、その他のページのようにのまとして、選んで貼り付けることができるようになっている。

図 5-9 仕掛け①

1ページ



左ページの緑の葉っぱは、マジックテープでくっついているので、それを取り外し、右ページのようににはりつける。葉っぱは、大中小と3つの大きさがあり、大きければ大きいほど、マジックテープでくっついている面が大きいのではがす時に力が必要となる。また、小さい葉っぱはつまむ面が小さいので手先の細かい動きが必要となる。

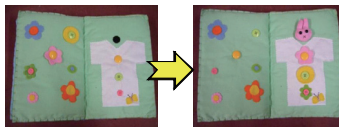
図 5-10 仕掛け②

2ページ目



左ページのスナップボタンを外し、右ページのようにふくにとめる。スナップボタンは大中小と3つの大きさがあり、大きいスナップボタンは外したり留めたりする際、指先に力が必要になる。また、小さなスナップボタンは、凹凸を良く見てボタンを止めなければいけなため、手と目の協調性や、手元を良く見る集中力がより必要となる。

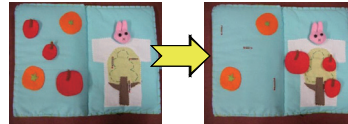
3ページ目



ボタンが花びらの中心の部分になっているので、左ページの花びらを外し、右ページのようにふくのはめる。ボタンは、大中小と3つの大きさがあり、それに合わせて花びらの大きさも変えてある。花びらをつまむ指先の動きや、ボタンを止める指先の動き、また右手と左手の協調性が必要となる。

図 5-11 仕掛け③

4ページ目



左ページのリングの鍵ホックを外し、右ページのようにふくにとめる。鍵ホックは右から、左から、上からの3方向から留めることができるように縫いつけてある。また、リングは大中小と3つの大きさがあり、大きいリングはつまみやすいが、鍵ホックを止めるときに、フェルトと鍵ホックが重なっている部分が大いので手元を良く見る必要がある。

5ページ目



左ページのつきのファスナーを開け、月のマスコットを取り出しマジックテープではりつける。右ページはひもを順番に通していく。大きいリングとビーズの細かいリングがある。ひもを通し終えるとひもが星の形をするようになっている。

図 5-12 仕掛け④

資料 2 完成した布絵本 ステップ 2 「ようふく」



以上のように、ようふくに模様をつけていく 作した。
 というようなしかけの布絵本の活用を通して、
 道具の操作を繰り返し行い、衣服の着脱に必要な
 手指機能を高めることを期待した布絵本を制

(3) ステップ3「一人で衣服の着脱ができるようになるための布絵本」の制作

- 布類
- カラ? シーチング 茶色
 - 布 茶色 緑色
 - フェルト 黄色 水色 黄緑色 赤色 桃色 緑色 白色 オレンジ色
 - パネロン芯
- 付属品
- ひも ピンク色と白色
 - マジックテープ
 - ボタン 丸ボタン 大小
 - スナップボタン
 - 鍵ホック
 - ファスナー 赤色
 - ホルダーリング
 - ハンガー
 - ジョイント

図6-1 材料

土台
茶色のカラ? シーチングを、40×20cmの大きさに裁断する。タンスになるように、ミシンで2本の線を縫う。これを表紙と本体、合わせて6枚用意する。

表紙
黄緑色のフェルトを、着替えの文字に裁断する。

表紙・その他
水色のフェルトを土台に縫いつけるためのハンガーの形に、黄色、オレンジ色のフェルトをタンスの取手の形に裁断する。

タンスのポケット
土台と同じ要領で、茶色のカラ? シーチングで15×20cmの大きさの布を用意し、タンスになるようにミシンで線を縫う。これを2枚用意する。

図6-2 制作手順①

表紙
裁断しておいた着替えの文字と、タンスの取手を縫いつける。また、全体をどじるためのスナップボタンを縫いつける。

1ページ目
裁断しておいたハンガーを縫いつける。ハンガーの上の部分にマジックテープを縫いつける。肌着の上着はこのハンガーにくっつくようになっている。また、タンスのポケットを、下の部分はミシンで土台に縫いつけ、上部分は土台とマジックテープでくっつくようにする。肌着の下がここに収納できるようになっている。

図6-3 制作手順②

2ページ目
裁断しておいたハンガーを縫いつける。ハンガーの下部分にスナップボタンを縫いつける。ここに長ズボンがくっつくようになっている。

4ページ目
タンスのポケットをミシンで縫いつける。ここに靴が収納できるようになっている。

その他のページ
その他のページには、茶色のフェルトを両端だけ縫いつけ、そこにハンガーがかけられるようにする。

図6-4 制作手順③

ようふくづくり

肌着
(肌着)水色のフェルトを上着、下着、それぞれのパーツの形に裁断する。ミシンで縫い合わせた後、上着にマジックテープを縫いつける。下着のゴムを通し、お尻の部分にくまのしっぽをつける。

長ズボン
(長ズボン)青色のフェルトを長ズボンのパーツの形に裁断する。ミシンで縫い合わせたあと、スナップボタンを縫いつける。

半袖
(半袖)黄色のフェルトを半袖のパーツの形に裁断する。ミシンで縫い合わせた後、ファスナーを縫いつける。

図6-5 制作手順④

半ズボン
(半ズボン) 赤色のフェルトを半ズボンのパーツの形に裁断する。ミシンで縫い合わせた後、鍵ホックを縫いつける。

くつ
(くつ) 黄緑色の伸縮性のある布をくつのパーツの形に裁断する。それをミシンで縫い合わせる。

ベスト
(ベスト) 緑色のフェルトをベストのパーツの形に裁断する。ミシンで縫い合わせた後、ボタンを縫いつける。

図6-6 制作手順⑤

くまのぬいぐるみ

型紙に合わせて、くまの部品(顔、足、手、胴体、耳)を裁断する。各部品を裏返しにして合わせて、一部分だけ残してミシンで縫う。残しておいた隙間から綿をつめる。足と手、顔の部品は綿が詰め終わったら、ジョイントを差し込み残りの部分を縫って口をふさぐ。それらを胴体に差し込み、くまの顔の表情とおへそをフェルトで表現したら完成である。

図6-7 制作手順⑥

仕上げ
土台に仕掛け等を縫いつけたら、土台の形に裁断したパネロン芯をアイロンで押しあててくっつけ、土台の四隅をミシンで縫う。すべてのページがかんせいしたら、霧で布に穴をあけ、そこにリングを通して布絵本をどじれば完成である。

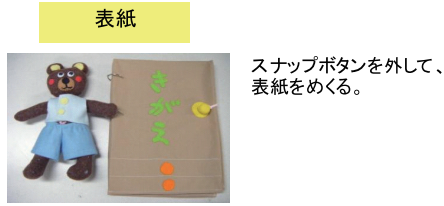


図 6-8 仕掛け①



図 6-9 仕掛け②

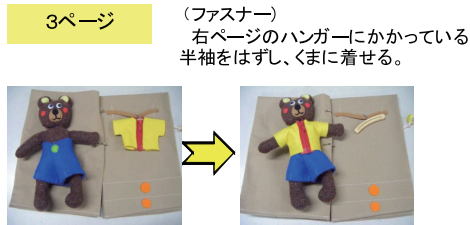


図 6-10 仕掛け③

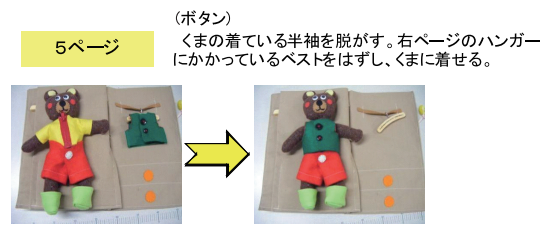
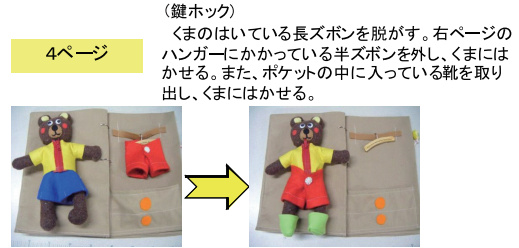


図 6-11 仕掛け④

資料 3 完成した布絵本 ステップ 3 「きがえ」



以上のように、くまのぬいぐるみを使用して実際に衣服の着脱の動作を練習することによって、道具の操作だけでなく、衣服を着たり脱いだりすることの練習や前後ろ、着替えやすい向

きなどの様々な機能に慣れ、一人で衣服の着脱ができるようになることを期待した布絵本を制作した。

6. 考察

観察結果から、幼児・児童が指に力を入れることや、ボタンやファスナーなどの道具の操作で右手と左手を同時に動かしたり、左手と右手で異なる動きをしたりすることを苦手としていることが明らかとなった。このような指先の機能の課題に取り組むため、マジックテープ、スナップボタン、ボタン、ファスナー、鍵ホック、ひもの6つの道具の操作を中心とした布絵本を制作した。また、児の実態は一人ひとりによって異なった。例えば、指先に力が入らない児童の中には、力を入れることを苦手とする児童もいれば、力を入れてはいるがその力が弱いという児童もいた。一人ひとりの実態に合わせて布絵本を活用することができるように、ステップを設定し段階を踏んだ3冊の布絵本を制作した。

布絵本は、すべてが手作りであるため、このように幼児・児童の実態に合わせた工夫が可能であった。偕成社の「手作り布の絵本」の中でも、布絵本がすべて手作りであることから、一人一人子どもの個性に対応した本を作ることができる⁴⁾。また、マジックテープやボタンをはじめとする留め具に関しても、子どもの興味や関心を引き付け、視覚や感覚を引き出すと述べられている⁵⁾。このようにして、布絵本の特徴である手作りの良さや色、布の感触を生かしながら、対象児の実態や課題を考慮した仕掛けを工夫することによって、衣服の着脱に関する支援が可能になることが明らかとなった。

7. まとめ

本研究では、障害児にとって衣服の着脱が困難な場合でも、遊びながら楽しくできるトレーニングとして布絵本の開発を試みた。療育センターでの観察実習により、幼児・児童の現状を明らかにし、衣服の着脱に関する機能のうち手指機能に課題が集中していることを明らかにした。これらの課題を克服するために、マジックテープ、スナップボタン、ボタン、ファスナー、鍵ホック、ひもの操作を取り入れた布絵本を制作することにした。また、一人ひとり異なる実態や課題に合わせた支援を行うことができるよ

うに3つのステップを設けた3冊の布絵本を制作した。

布絵本は一つ一つが手作りであり、制作する過程でそれぞれのねらいや期待される機能などを明確にしておくことで、より対象児に適した作品が出来上がることが考えられた。

今後はこの布絵本を用いて実践に取り組み、衣服の着脱に関する支援のための布絵本の効用と課題について検討していく必要があると考えている。

なお、本研究にご協力いただきました福富医院院長福富悌先生、あじろ診療所ひめゆり療育センターの先生方、児童ならびに保護者の皆様に書面にて御礼申し上げます。

引用文献

- 1) 内藤愛 (2007) : 『衣服の着脱ができるように手指を使って遊ぶ教材・教具「らいおんマット」』 上越教育大学障害児教育実践センター紀要, 13, 59-60
- 2) 早瀬伸子 (1987) : 「障害児の遊具としての布の絵本—障害児の文化的側面へ福祉活動を続けるふきのとう文庫の活動の結実として—」 北海道教育大学情緒障害教育研究紀要, 6, 85 - 92
- 3) 布施谷節子, 柴田優子, 岸田宏司 (2009) : 「知的障害児の衣服と靴の着脱の実態と支援について」 日本家政学会誌, 60, 589-598
- 4) ふきのとう文庫 (1979) : 「手作り布の絵本」 偕成社p.92~93
- 5) ふきのとう文庫 (1979) : 「手作り布の絵本」 偕成社p.94~95